

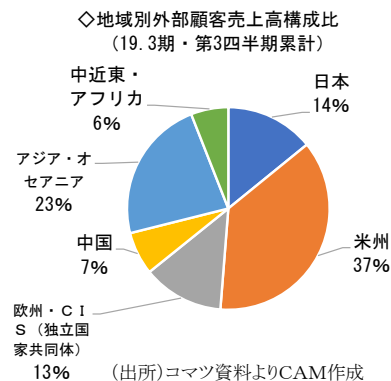
企業ニュース コマツ

(東証1部：6301) <https://home.komatsu.jp/>

作成者：奥村義弘

世界2位の建設機械メーカー

米国のキャタピラーに次ぐ世界2位の建設機械メーカー。1921年、竹内鋳業より小松鉄工所を分離独立し、石川県小松町に小松製作所を設立。2017年4月に米国鋳山機械メーカーのジョイ・グローバル社（現：コマツマイニング、以下KMC）を買収し、グローバルでの経営力を強化し注目を集めた。エンジン、トランスミッション、油圧機器、アクスル、コントローラ等の電子制御部品をすべて自社生産している。足元は、ICT（情報通信技術）を使った鋳山向け無人ダンプトラック運行システム、一般建設機械、農業・林業の支援にも力を入れている。19.3期・第3四半期累計（4-12月）の売上高構成比は建設機械・車両91%、リテールファイナンス2%、産業機械他7%。



中国市場は減少も総じて順調な進捗

19.3期・第3四半期累計（4-12月）の連結業績は売上高が2兆186億円、前年同期比12%増、営業利益が2,958億円、同59%増。建設機械・車両では、日本・中近東を除くすべての地域で増収となり、特に北米・アジア・オセアニアなどで伸長した。利益面では物量増に加え、販売価格の上昇も寄与した。KMC買収費用の減少もあり、大幅増益となった。この他、リテールファイナンスでは、中国の貸倒引当金の戻り益と北米の販売増、産業機械他では、自動車向けの工作機械に加え好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連の販売増などが寄与した。

19.3期の通期会社計画は、売上高2兆6,620億円、前期比6%増、営業利益が3,810億円、同42%増で据え置かれた。おおむね、昨年10月の公表値レベルで進捗している。足元、中国や減速が伝えられるインドネシア市場には注視が必要である。一方、国内では災害復興等におけるレンタル需要の増加、排ガス規制による駆け込み需要の反動減に歯止めがかかっている。海外は北米では土木・エネルギー向けが堅調、欧州ではドイツなど主要市場や東欧が伸長している。20.3期も中国ではインフラ投資の拡大期待もあり、過度な悲観は不要だろう。大手鋳山機械会社の設備投資は堅調で、業績拡大期待は継続しよう。

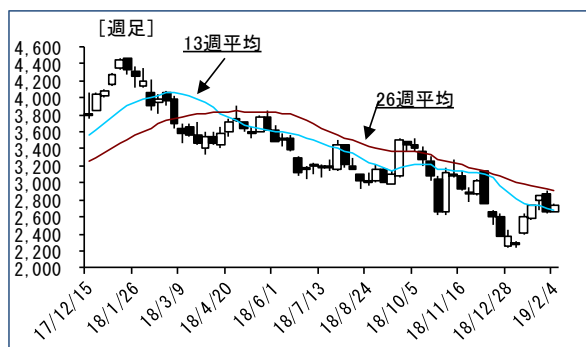
[株価動向・投資判断]

予想PERに割安感。中国関連の短期的な悪材料に出尽くし感が出れば反発に期待できよう。

<6301 コマツ 業績:米国基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,802,989 (▲ 3)	174,097 (▲ 17)	166,469 (▲ 19)	113,381 (▲ 17)	120.3	58.00
18.3	2,501,107 (▲ 39)	271,581 (▲ 56)	291,807 (▲ 75)	196,410 (▲ 73)	208.3	84.00
19.3 予	2,662,000 (▲ 6)	381,000 (▲ 42)	362,000 (▲ 24)	240,000 (▲ 22)	254.3	102.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価(2019/2/4)	2,745.0 円
昨年来高値(高値日)	4,475 円(18/1/15)
同 安値(安値日)	2,240.0 円(19/1/4)
予想PER(19.3予)	10.8 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,820.0 円
PBR	1.51 倍
予想配当利回り	3.72 %
(1株当たり配当金年102.00円)	
ROE(18.3)	12.1 %
発行済み株式数	97,225 万株